



弘前城周辺の水環境を保全するためのとりくみ



平成19年10月

弘 前 市
青森河川国道事務所
津軽ダム工事事務所

今後、ますます弘前城周辺の水環境が悪化？

弘前城やお堀は、歴史と風格を感じさせ、街に潤いを与える貴重な財産です。また、春には桜の弘前城として全国から200万人以上が訪れる日本を代表する桜の名勝地です。しかし、お堀は自己水源が乏しく水循環不足から弘前公園外濠の水質が悪化し、悪臭を放つ問題が深刻化し市議会でもたびたび取り上げられてきましたが、抜本的な改善には至っていません。

これまで、お堀の水は、かんがい期に農業用水により満たされてきましたが、近年、弘前市周辺では田畑の減少が進み、農業用水が大幅に減少するため、お堀の水環境は今よりもさらに悪化すると、危ぶまれています。

水量が確保された西濠



水量が確保されない西濠



H8.4.28 陸奥新報→

H12.9.8 陸奥新報↓



弘前公園
外濠



弘前公園中濠
で発生した大量の
アオコ



H12.8.31 陸奥新報↑

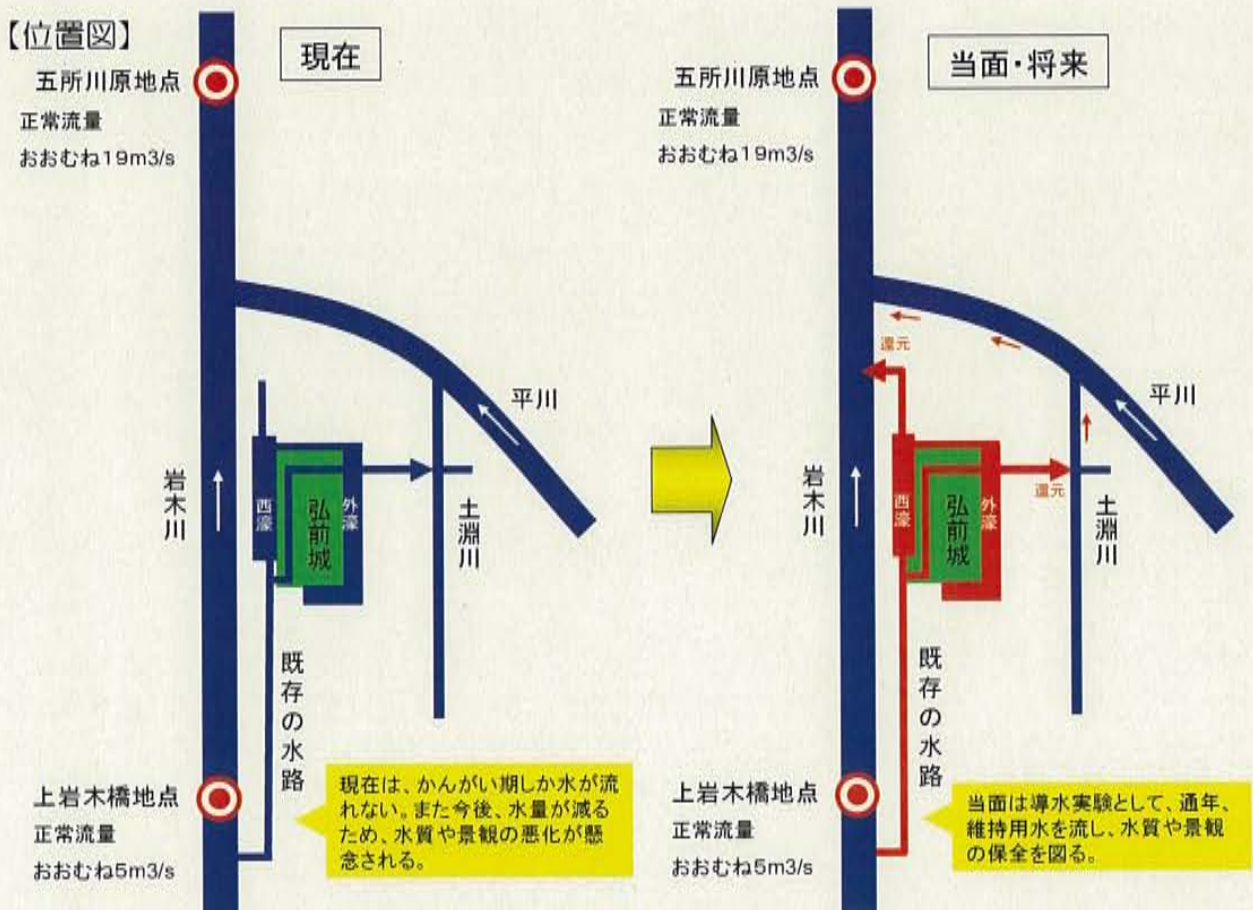


弘前公園内を
流れる二階堰

岩木川の水を二階堰川へ流す“導水実験”を行います

弘前市は平成19年5月2日に消流雪用水取水樋管から清野袋排水樋管までのうち、消流雪用水導水路と西濠を準用河川「二階堰川」に河川指定しました。また、平成19年8月21日に津軽ダム基本計画変更が告示されたことにより、将来的に岩木川の安定した水量が確保されることが確実となりました。

そこで、弘前市と国土交通省は、当面の間、水質や景観の変化を確認するために、最大1.3 m³/秒を流し、岩木川から二階堰川へ導水する長期的な（3ヶ年予定）実験を行います。



【通水期間】

◆これまでの通水期間

1/1	4/1	4/5	9/6	12/1
消流雪用水		農業用水		消流雪用水

◆当面の通水期間

1/1	4/1	4/5	9/6	12/1
消流雪用水		農業用水		消流雪用水
	(導水実験)	(導水実験)	(導水実験)	

※将来においては、導水実験ではなく本運用とします。

津軽ダムの完成で岩木川の流量が安定します

● 現在の岩木川の河川流量を二階堰川へ導水できる水量は、夏場の渇水時などは少なくなる可能性があります。

ところが、津軽ダムが完成すると、通年、岩木川には正常流量（五所川原 19 m³/秒、弘前 5 m³/秒）以上が流れ、潤いのある岩木川が出現します。

そこで、岩木川の正常流量以上の水量を有効利用し、弘前城周辺のお堀の水質や景観などの保全のために年間を通して安定的に導水することが可能となります。

津軽ダムは、ダム本来の目的のほかに、弘前城の潤いあるお堀の実現に貢献します。



津軽ダム完成イメージ



津軽ダムが完成すると弘前城周辺のお堀や導水路の維持流量（約 1.3 m³/s 相当）を流せる日数が以下ようになります。

(1/10 渇水年の場合)

これまで	1年間の約4割
	↓
当面の導水実験	1年間の約7割
	↓
津軽ダム完成後	ほぼ通年



弘前市 建設部

〒036-8551 青森県弘前市大字上白銀町 1-1

TEL0172-35-1111 FAX0172-39-7119

国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所

〒030-0822 青森県青森市中央三丁目 20-38

TEL017-734-4521 FAX017-722-2540

国土交通省東北地方整備局 津軽ダム工事事務所

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田 57

TEL0172-85-3005 FAX0172-85-3008